Report

熱中症による救急搬送の状況及び予防啓発の取組について

救急企画室

1　はじめに

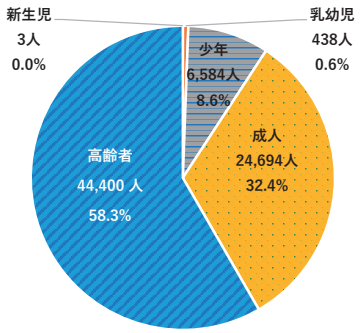
消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員の調査を行っています。令和７年は記録的な暑さが続き、５月１日から８月17日までに76,119人（※速報値）の方が熱中症で救急搬送されており、６月が過去最多、７月が過去３番目の搬送人員となるなど、調査開始以降最多となった令和６年同様、厳しい状況となっています。今回は、熱中症による救急搬送の状況等について詳しくご説明します。

2　熱中症による救急搬送状況

①　年齢区分別の救急搬送人員（図１）

５月１日から８月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、高齢者が44,400人（58.3%）と最も多く、次いで成人24,694人（32.4%）、少年6,584人（8.6%）などとなっています。約６割を占める高齢者は、暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくい傾向があるため、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

図１　年齢区分別（構成比）
令和７年　総搬送人員76,119人



凡例

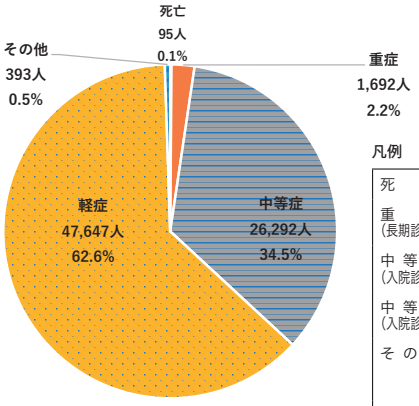
新生児	生後28日未満の者
乳幼児	生後28日以上満７歳未満の者
少　年	満７歳以上満18歳未満の者
成　人	満18歳以上満65歳未満の者
高齢者	満65歳以上の者

※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

②　傷病程度別の救急搬送人員（図２）

５月1日から８月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、軽症が47,647人（62.6%）と最も多く、次いで中等症26,292人(34.5%)、重症1,692人（2.2%）、死亡95人（0.1%）などとなっており、入院が必要となる中等症以上と診断された搬送人員が約４割を占めています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化します。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。

図２　初診時における傷病程度別
令和７年　総搬送人員76,119人



※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

凡例

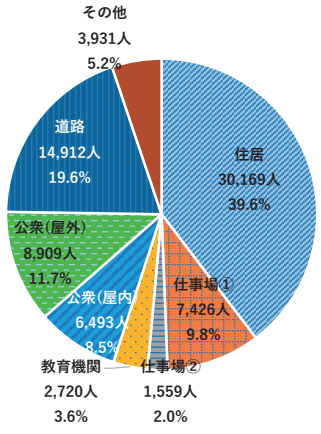
死　亡	初診時に死亡が確認されたもの
重　症（長期診療）	傷病の程度が３週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症（入院診療）	傷病の程度が重症または軽症以外のもの
中等症（入院診療）	傷病の程度が入院加療を必要としないもの
その他	医師の診断がないもの及び傷病程度が判明しないもの、その他の場所へ搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、軽症の中には早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれる。

③　発生場所別の救急搬送人員（図３）

５月1日から８月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、住居が30,169人（39.6%）と最も多く、次いで道路14,912人（19.6%）、公衆（屋外）8,909人（11.7%）、仕事場①7,426人（9.8%）、公衆（屋内）6,493人（8.5%）などとなっています。

図３　発生場所別（構成比）
令和７年　総搬送人員76,119人



凡例

住　居	（敷地内全ての場所を含む）
仕事場①	（道路工事現場、工場、作業所等）
仕事場②	（田畑、森林、海、川等　※農･畜･水産作業を行っている場合のみ）
教育機関	（幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校、専門学校、大学等）
公衆(屋内)	不特定者が出入りする場所の屋内部分（劇場、コンサート会場、飲食店、百貨店、病院、公衆浴場、駅（地下ホーム）等）
公衆(屋外)	不特定者が出入りする場所の屋外部分（競技場、各対象物の屋外駐車場、野外コンサート会場、駅(野外ホーム）等）
道　路	（一般道路、歩道、有料道路、高速道路等）
その他	（上記に該当しない項目）

※端数処理（四捨五入）のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

④　都道府県別の救急搬送人員（図４）

５月１日から８月17日までの熱中症による救急搬送人員の合計76,119人のうち、東京都が6,854人と最も多く、次いで大阪府5,393人、愛知県4,990人、埼玉県4,630人、神奈川県3,733人となっています。

⑤　週別の救急搬送人員（図５）

週別の救急搬送人員は、６月中旬までは200～1,200人前後で推移していましたが、６月中旬以降急増し、特に６月30日の週及び７月21日の週は10,000人以上となっています。

図４　都道府県別熱中症による救急搬送人員
前年同時期との比較（累計：５月１日～８月17日）

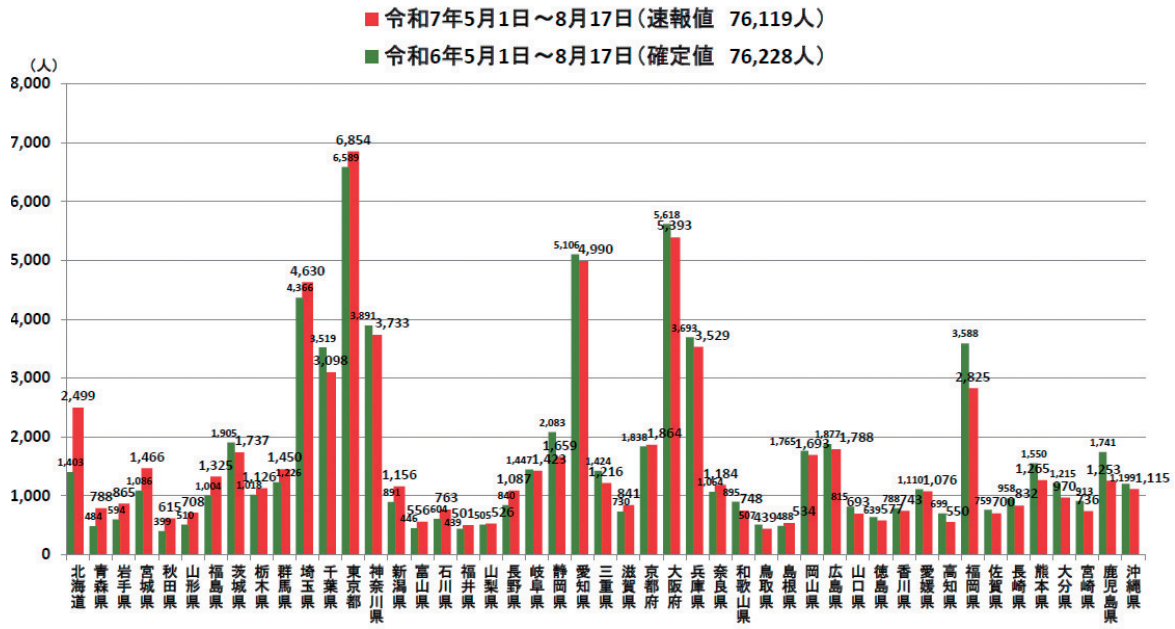
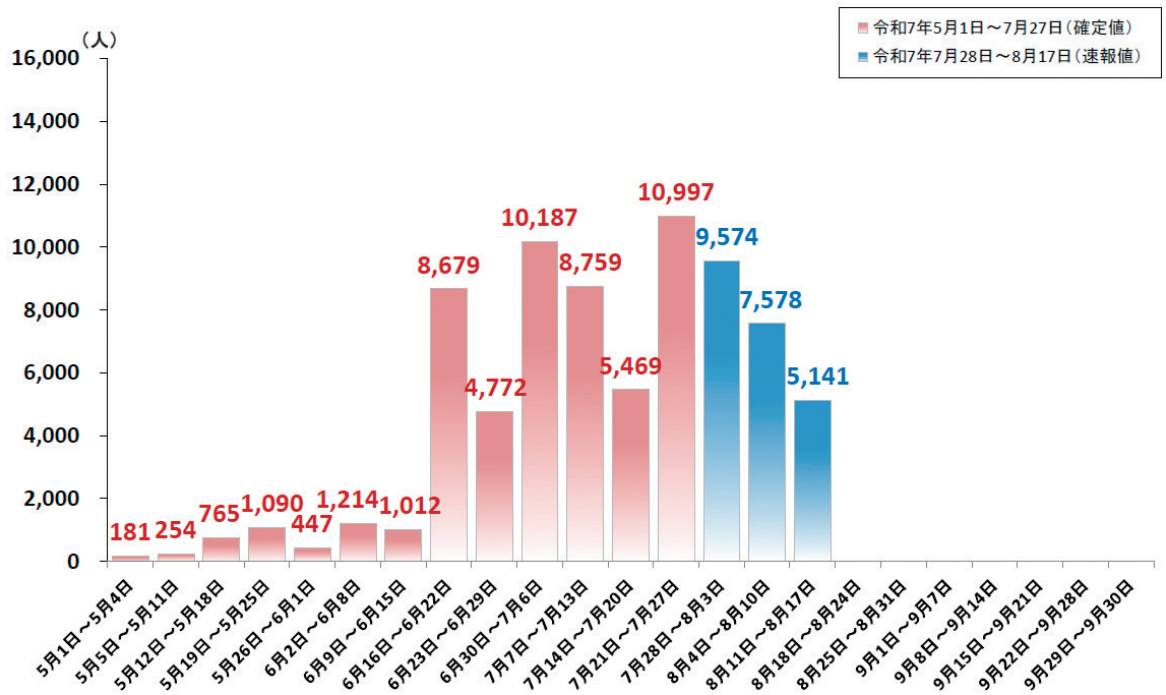


図５　熱中症による救急搬送人員（週別推移）



3　消防庁における熱中症予防啓発の取組

消防庁では、全国消防イメージキャラクター「消太」を活用した熱中症予防啓発ポスター・ビデオ・イラスト、熱中症対策リーフレット、全国の消防本部が独自で行っている熱中症予防啓発の取組をまとめた熱中症予防啓発取組事例集等の予防啓発用コンテンツをホームページに掲載しているほか、X（旧Twitter）でも熱中症の予防について発信しています。

また、「熱中症予防強化キャンペーン」として、関係府省庁や官民連携の下、時季に応じた適切な熱中症予防行動の呼びかけを行うとともに、狙いを絞った効果的な普及啓発や注意喚起等の広報活動を実施しています。

【ポスター】

【消防庁Xでの広報】

4　熱中症予防のポイント

東京都のデータでは、お亡くなりになられた方の８割以上が高齢者で、また、８割以上がエアコンを使っていなかったというデータがあります。こうした点を踏まえて、熱中症を予防するために、改めて以下の項目を心がけて下さい。

・喉の渇きを感じる前のこまめな水分補給や適切な塩分補給
・室内の温湿度をこまめに測るとともに、エアコン・扇風機をためらわずに使う
（エアコンが使用できないときは、涼しい服装に着替え、濡れたタオル等を肌に当て、うちわであおぐと熱が放散される）
・屋外の作業ではこまめに休憩をとる
・熱中症警戒アラートが発表されるような日は、外出をできるだけ控え暑さを避ける

5　おわりに

多くの方が病院に運ばれたり、亡くなったりする、熱中症を引き起こす猛暑は、もはや「災害」といっても過言ではありません。屋内外や昼夜を問わず、ご自身の命を守るため、基本的な熱中症予防対策を徹底するとともに、周りの人や離れて暮らすご家族等への呼びかけも重要です。

消防庁では、全国の消防本部と連携をとりながら、引き続き熱中症予防啓発に努めていきます。

【参考】消防庁熱中症情報
https://www.fdma.go.jp/disaster#anchor--07
※　熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています

【参考】熱中症予防情報サイト　普及啓発資料（環境省）
https://www.wbgt.env.go.jp/heatillness_pr.php

問合わせ先
消防庁救急企画室　竹田、松田、三宅
TEL: 03-5253-7529